

## ひらがな

松浦 純子

ひらがなは小学校に入学してから習うものだと思ってきた。私が小学校に入学したころは、たしか入学時点で書けなくてもよかったと思う。

しかし、昨今の事情は全く違うようである。以前は絵本などを親が読んでくれ、本に書いてある文章を知らず知らずのうちに覚えた。文字は読めないが、このペーじにはこんな文章が書いてあるに違いないと思って、あたかも読めるかのごとく本を朗読していた。もちろん今でもそうであろうが、幼稚園の子供はインターネットなどに出てくるキャラクターの名前を読んだり書けたりする。さらに早期教育とやらで、入学前から通信教育の雑誌、さらにそういう会社が経営するKやBの塾に通っている子供もいる。

タイトルの「ひらがな」は私にとって、小学校でひらがなを習う前の子供たちの書き方・書き順が衝撃的だったからである。例えば、「は」や「ほ」などはまず、右下の回転しているところから書き始め棒を下から上へ伸ばす。さらに横棒は右から左に書く。最後に左側の所謂一画目を下から上につき上げる。何人かの子供たちがそのように書いているのを見たが、一人や二人ではなかった。「あ」や「お」も「の」みたいなところを先に書き、その後縦棒を上へ伸ばし、最後に横棒を右から左に書く。このような順に書かれると、何という字ができあがるのか、最初は見当がつかない。クイズみたいである。この子供たちの書き方だと言っている文字が自分の手に隠れてしまい見えないのではと心配になる。それにしてもし思議な書き方である。

友人に話したら、文字を画像で覚えているんじゃないのという答えだった。なるほど絵には描く順番はない。チューリップは花から描いても、葉っぱから描いてもチューリップが描ければそれで問題なし。文字もそのように書いているのだと納得した。

そういうえば外国人がひらがなを書く時、書き順を無視する人が多いのは画像で覚えているからではないだろうかと思った。